

くまもとポイント懇談会議事録（概要）

- 1 日時 令和5年（2023年）8月29日（火）14：00～16：00
- 2 場所 熊本城ホール3階 大会議室（A1）
- 3 出席者 別添のとおり
- 4 次第
 - （1）くまもとポイント事業の概要説明
 - （2）意見交換
 - ① 「アプリを实际使うことを想定した場合の気になる点について」
 - ② 「アプリ普及促進のための周知広報について」

※敬称略。

- （1）くまもとポイント事業の概要説明

◆事務局から「（資料1）くまもとポイント事業について」の内容を説明。

座長

出席者の皆様には、これまでのご経験等を踏まえ、ご意見やご助言をいただきたい。

田上氏（白坪校区第7町内自治会）

対象活動を市の主催からボランティアへ広げていくのは良いが、地域の活動も想定されているか。

事務局

将来的に想定している。事前アンケートでもご意見を頂戴したが、こういった活動が対象事業になりうるのかご意見頂戴しながら決めていきたい。

吉田氏（熊本県中小企業家同友会）

各自治会主催の行事参加等へポイントを付与してはどうか。
準備段階から参加することで参加者同士の交流が深まり、地域のつながりが強まると考える。

最近自治会に入らない人も増えている。この状況では災害時の避難や避難者の把握に支障が出てしまうため地域のつながりを強める活動も対象とすることを視野に入れてほしい。

事務局

目指すべき姿だと考える。アプリを使って広く情報を発信し、皆さんが参加してみようと思うきっかけになればと考えている。

上田氏（桜井校区自治協議会）

マイナンバーカードを使うくまもとアプリとマイナンバーカードを作らない人達との本事業への絡みはどのように考えているのか。

事務局

マイナンバーカードと連携させるという趣旨については、本人確認を簡単にできるところでの活用であり、マイナンバーカードの番号自体ではなく、氏名、住所、性別、生年月日の基本4情報のみ。また、スマートフォンの普及率は高くなっているため、アプリ上で正確な情報に基づいた活動証明書の発行等への利便性高めるもの。マイナンバーカードを所有していない人への対応は今後検討していく。

上田氏（桜井校区自治協議会）

基本的にはマイナンバーカードを持っている人が対象でマイナンバーカード普及を促進するものにとらえてもよいか。

事務局

お見込みのとおり。丁寧に説明をしていきたい。

浦野氏（熊本県商工会議所青年部）

将来的な展開の話。若い世代はアプリをダウンロードする障壁は高いと思うが、アプリを作った後の展開として、拡散、ダウンロードへの展開という点で見解を伺いたい。

事務局

事務局もダウンロードへの障壁がネックだと認識している。本日は幅広い世代の方にご出席いただいているので、普及促進へのアドバイスをいただきたい。事務局の想定は市のホームページや市の公式LINE。周知広報の方法について工夫をしていきたい。

千代田氏（託麻北校区第2町内自治会・託麻北校区防災連絡会）

先行している「げんきアップくまもと」と同じようなものだととらえているが、

庁舎内の連携はどうなっているのか。

事務局

熊本市で同じようなアプリをつくるのは皆様にとって複雑で分かりづらいなど認識している。将来的にはそういった部分も統合、もしくは同じアプリ内で全てが集約してみえていくような形に出来ていけたらと思っている。検討中のため、方向性が示された場合には、御説明をさせていただきたい。

(2) 意見交換

- ◆事務局から「(資料2) くまもとポイント懇談会事前アンケートについて」の内容を説明。

① 「アプリを实际使うことを想定した場合の気になる点について」

千代田氏（託麻北校区第2町内自治会・託麻北校区防災連絡会）

町内で現在使用しているメールサービスの普及にもかなり時間がかかった。アプリ使用へのメリットはあるのだろうが、短期間で広げるのはなかなか難しいと思う。

事務局

まちづくりセンター等へも協力を仰ぎ、懇切丁寧に住民の方たちへは説明を行っていきたい。自治会等に説明するうえでのご意見はあるか。

千代田氏（託麻北校区第2町内自治会・託麻北校区防災連絡会）

各家庭に回る回覧板は活用できると思う。

田上氏（白坪校区第7町内自治会）

ポイントアプリについて。活動をする人へのメリットを示すべきだと考える。メリットを示さないことにはそもそもダウンロードしてもらえないのか不明瞭。

座長

事務局が想定しているメリットとして、活動後にアプリ上で発行される活動証明の就職活動への活用などがある。

対象活動、ポイントの用途はこれから検討していく内容になる。本日の懇談会を通じて広くご意見いただけたらと思う。

上田氏（桜井校区自治協議会）

世代ごとに事業やアプリの浸透方法を検討する必要がある。

ご高齢の方への浸透は自治会等の組織体で対応できるかもしれない。しかし、若い世代は個別に考える必要がある。

堀氏（高平台校区防災連絡会）

アプリを使うことで主催者側の手間はどうか。ポイント付与のタイムラグやポイント付与の際、主催者側が何か別途操作をする必要があるのか。

事務局

アプリの具体的な仕様については今後業者と打ち合わせする内容になるが、現在のイメージはまず、主催者が活動日前日までに活動情報をアプリ上で入力し、アップしたものが一覧となってアプリ上に掲載されていく。そして、参加したい活動に参加者が申し込みをする。最後に活動終了、主催者が参加者にQRコードを出して、活動参加者が読み込むとアプリ上で活動証明とポイントが付くもの。

できるだけ、主催者側も参加する側も、簡単に使えるような仕様をしたいと考えている。

堀氏（高平台校区防災連絡会）

先日4年ぶりに地域で祭りを開催した際、1300人ほど人が集まった。運営や設営などはボランティアで成り立っているため、こういった活動にもポイントが付くとよい。

土井氏（NPO 法人傾聴ネットキーステーション）

地域の後継者が不足しているという背景はあるが、地域外の活動に興味があり、参加したいとなった場合にもポイントはつくのか。また、高齢者はQRコード等の操作にサポートがないと難しいと思う。最後に、この事業の終着点はあるのか。

事務局

特に参加者の制限をかけるつもりは今のところ考えていない。終着点というよりも目指すべきものは地域の担い手の方が少なくなっているというところで若年層を中心に幅広い世代の方に、地域に目を向けてもらうきっかけになるというところ。

地域活動やボランティア活動参加する中で、そこでつながりが出来、将来的にその地域やその活動の担い手になっていただければと思っている。かなり息の長い活動にはなる。

土井氏（NPO 法人傾聴ネットキーステーション）

学生の方もボランティアに興味がある方はいらっしゃると思う。情報発信の話があったが、SNS を活用すること、学校に協力してもらうこと、説明会の実施などできるのではないか。こういう方法があることによって、活動しやすい環境を作ることが1番いいと思う。

坂口氏（一般社団法人大学コンソーシアム熊本）

活動が1時間で終わるもの、半日で終わるものと様々だと思う。それによってポイントも変わるものと認識しているがポイントによって活動を検索することも想定されると思う。また、アプリ上で家族情報が入力でき、子どもも一緒にポイントを貯められる仕組みがあるとよい。

事務局

ご御意見を参考にさせていただきたい

宮原氏（熊本市社会福祉協議会）

熊本地震の際に、災害ボランティアセンターを設置した。その際、8割は県外の方であった。熊本市の方が活動しようと思っても出来なかったという前例がある。そういった点も含めて考えておかないと、いざ、登録してボランティアをしようと思ってもボランティア活動が出来ない。

そうすると、クレームは全部ボランティアセンターのほうに来るということがあるので、そういった現状も踏まえていただきたい。また、大規模災害時にうまく動くか検討の必要がある。

田上氏（白坪校区第7町内自治会）

ボランティア受け入れ先のルートも検討の必要があると思う。活動受け入れ先がはっきりしていないと活動は難しい。

久保氏（NPO 法人ドットジェイピー）

活動の実施やポイントの不正取得への見解を伺いたい。

事務局

開発していくにあたって事務局、開発バンダーのほうもそこをととても気にして

いる。そういった不正防止も視野に検討、開発をしていきたい。

基本的には、機械的な部分での不正防止と実際に活動が終わってから、その QR コードを読み込んでいただくというような形で、運用面のほうでも、気をつけていただくような形で周知を徹底してまいりたい。

土井氏（NPO 法人傾聴ネットキーステーション）

避難所運営について、避難所は全部指定避難所だけが該当している感じか。熊本地震のときには緊急に地域の方を受入れたところがあった。そういったところも対象と考えていただければいいと思う。

事務局

現時点での想定では指定避難所のみを想定。今後、拡張という機会があれば、検討をしていければと思っている。

千代田氏（託麻北校区第 2 町内自治会・託麻北校区防災連絡会）

自治会の活動といっても町内一斉清掃など活動場所が広範なものもある。その場合にうまく主催者が QR コードを参加者に提示できるかの仕掛けを検討してもらいたい。

防災の面について、熊本地震の際にどこに避難したかを自治会から地域にアンケートを取ったことがある。その際、介護施設等も回答として挙がっていたため、そういった場所も対象となればよい。

田上氏（白坪校区第 7 町内自治会）

避難所運営コンテンツについて。市の職員が指定避難所受付の際にアプリを使うのか。各個人避難しているところを一覧表にチェックしていく方法も検討できるのではないか。

事務局

避難所以外に避難されている方については、アプリを入れている方に対してプッシュ通知やアンケート機能を用いて避難場所を把握するようやり方を今のところ想定している。

指定避難場所のほうに避難された方については入所時に QR コードで受付をし、出るときは検討中だが、御自身で退所手続きができる、または、受付の職員に退所手続きをしていただくような方法等含め、今後検討していきたい。

田上氏（白坪校区第7町内自治会）

アプリに登録をしていれば、すべての情報がいきわたると理解してもよいか。

事務局

今のところそのような想定。

小竹氏（株式会社熊本日日新聞社）

現状、熊本市民の、市のためのアプリになってしまうのではないかと。

災害時などに県外の方がどうやって使うのか、周辺の自治体がどう使うのか、そういった広域連携部分をやらなきゃいけないのかなと思っている。それについて具体的に現在の見解を伺いたい。

事務局

アプリの利用を市民に限定する想定はない。災害ボランティアに他県からお越しになった方にもその場で登録していただくか、もしくは事前に登録していただいておりますというご案内はできると考えている。

このアプリはできれば広く、他の県、市町村でも使っていただけるような形に展開していければと思っている。そういった部分も将来的に使えるようなアプリにつくり込んでいきたい。

座長

国の交付金を使った事業ということで横展開をしていく事業のことになる。極力ほかでも活用できるような形でできるだけ広げられるようなことは考えていきたい。

② 「アプリ普及促進のための周知広報について」

浦野氏（熊本県商工会議所青年部）

若者が感じるメリットとしてその就職の際に役立つところはずごくメリットとしてあると思う。そのため、高校と大学との連携は必要になってくるのかと思う。

アプリのダウンロードへの障壁については、ユーザーに対して付加価値を提供しないといけない。メルカリやPayPayが最近でいうと幅広い世代に普及しているアプリだと思う。もし可能であるならば、招待制でポイントを付与するのはどうか。招待した側とされた側双方にポイントが付けば広がるのではないかと思う。

宮原氏（熊本市社会福祉協議会）

アプリの会員証を見せれば、店舗で割引が受けられるなどポイントがなくても使えるものにしてはどうか。店舗と利用者双方にメリットがあると思う。ポイントがないと使えないとなると学生の方々もきついのではないかな。

久保氏（NPO 法人ドットジェイピー）

割引や招待等の方法をより加速させるためにインフルエンサーの方に拡散の協力をもとめることは必要だと思う。

田上氏（白坪校区第7町内自治会）

市主催の活動から対象としていくということであったが、それだと課題として挙げられている地域の担い手不足という問題解決までいかないと思う。地域の人が地域のことを知っていただいて、それに参加するというのが地域活性化に繋がっていくと思う。

吉村氏（and MANA 株式会社）

資料1の地域のためにできることはないかなあとあるが、現状これを持っている人は自分で活動しているのではないかな。私はボランティア活動などに参加したことがない。そういった人たちが、これを使いたい、利用したいとなったときに拡散や紹介制などで1回ダウンロードはすると思うが、その後継続的にそれを使うかと言われたら、正直、使うイメージが今分からない。どんなものがあったら自分が使いたいかなと考えると、自分に対するメリット。そこがユーザー側の気持ちとしては1番大きいと思う。

一回活動に参加すればメリットを享受できるのか、それとも複数回なのか、そこを考えてしまう。心理的ハードルも考慮したうえでメリットを示してもらいたい。

上田氏（桜井校区自治協議会）

このくまもとポイントのイメージがまだ余りつかめない。このポイント活用が地域活性化にどうつながっていくのか非常に抽象的なイメージがある。おむつ助成など個人に寄与するようなメリットだと非常にアプリが早い。災害ボランティアや防災への活用のほうが非常にイメージとして強い。

事務局

周知の仕方も含め、こういった形でインセンティブとなりうるかというところをさらに検討していきたい。

1回の活動参加で何かメリットが得られるというのであれば1度の参加に関してハードルが下がってくると思う。それに対して、何回も継続してやっていただくことでさらに何かメリットがあるようなインセンティブを検討していきたい。

吉田氏（熊本県中小企業家同友会）

地域の中にそれぞれ企業もある。地域の方とのつながりを企業も模索している。ポイントの活用方法として企業の社会貢献活動にポイントを付与するということもありだと思う。そのポイントを見える化し会社全体で取り組んで得たポイントを福利厚生に使うことや評価していくと社員のモチベーションも上がると思う。

ボランティアを募集した際に、活動のお礼の品を会社として準備すると募集定員以上の人が集まった。活動への見返りがあると人が動く実感した。

事務局

企業ごとの評価という形でポイントの見える化は新しい視点だと思う。

アプリを利用して参加することがきっかけとなって、そこで出会った人とのつながりでまたさらに活動が広がっていくということも目指している。そのような形で使っていただけるように、頑張っアプリのほうをつくってきたい。

早田氏（株式会社肥後銀行）

資料に記載されているメリットが堅いものと感じる。

地域のためにできることはないかなあと思ってない人を地域の活動に引きずり込むための仕掛け、いわゆるそこに引きずり込むためのメリットをいかに周知していくか、一連の回る仕掛けやサイクルをきちんとつくっていかないとアプリを作っても、最終的に自己満足の中で回ってしまうのではないかという気がしている。次回の懇談会の場でその仕掛け等もご教示いただければと思う。それについては全部市で考えるのか。

座長

本日ご意見も踏まえ、また個別に声を拾いながらこのアプリの構築のほうを進め、改めて1月にある程度形が出来たところで提示をしてまた意見等を伺うというようなところになると思う。

回っていくような仕掛けについては意見も踏まえ、検討していきたい。

森氏（株式会社熊本日日新聞社）

アプリダウンロードの目標について確認したい。

明確にあればだが、ユーザーの数や将来的にどのくらいのタイミングでどのくらいの人が使える状態にしたいなどの事業目標のようなものはあるのか。

事務局

熊本市の人口のまずは約1割の方にダウンロードしていただきたい。

藤原氏（中島校区防災連絡）

世代ごとに周知広報策を変えていく必要がある。また、ポイント事業に関し、理解しきれていない部分多々あるが、こういった活動を対象にしていくかなども絞ったうえで広報する必要がある。

事務局

対象を絞って徐々に広げる形で進めてまいりたい。

田上氏（白坪校区第7町内自治会）

災害ボランティアや避難所を前面に出してはどうか。これは全世代共通のことであると思う。地域（ポイント）は難しい面もある。

座長

地域ポイントはスモールスタート、避難所と災害ボランティアは今年度しっかり動いていくような形になるかと思う。地域ポイントについては何を対象にするのか等様々な意見があると思う。今年度、特に来年度もご意見いただきながら、市が主催するものから使い勝手を試しながら、徐々に間口をひろめて、地域にも使ってもらえるものにしたい。

小竹氏（株式会社熊本日日新聞社）

スモールスタートといわれているが、スモールスタートから大きくなった事例はそれほど多くないと思う。ビッグスタートで入り、そして徐々に領域を狭め

ていく形ですすめたほうがいいのではないかと思う。

スモールスタートと熊本市が言うのではなく、もうどうせやるのであれば、さあダウンロードしろというぐらいの意気込みでお願いしたい。

事務局

国の交付金ですすめているため、一旦今年度事業を実現させないといけない。地域のいろんな活動を対象とするにあたって、様々な意見がある中、この限られた期間でそこを整理していきなりスタートするというのは非常に難しいと思っている。

むしろ混乱を引き起こす可能性もある。まずは様々なやり方があると思われる。その意見を聞いたところで進め、それを試しながら、改善も加えて、それで見極めがついたところである程度本格的に進めていく方針で検討している。

森氏（株式会社熊本日日社）

3機能あるが、このアプリがなんのアプリなのか伝わりづらい。このアプリのコンセプトを言語化したほうが良い。

秋山氏（黒髪校区自治協議会・黒髪校区第15町内自治会）

身近な地域の活動にポイントをつけていただきたい。若い世代も巻き込んでいくためにはポイント付与は必要かと思う。

洲崎氏（力合西校区第1町内自治会）

資料を見ると仕様の検討は8月までとなっているため、現時点でアプリは90%できていると理解している。意見を聞きながら変えていくとのことだが、途中で仕様を変えるのは難しいと思う。

事務局

資料の作り方が悪くて申し訳ない。仕様案の検討は継続して事務局のほうでも行っている。これから業者も含めて、細かく詰めていく。

今日いただいた意見も参考にまたしっかり詰めていきたいと思っている。分かりづらい資料になってしまい、申し訳ない。

事務局

本日は貴重な意見を賜り、感謝申し上げます。

（終了）